

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



June						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

June 2024 vol.122

◆ 細江神社

所在地：静岡県浜松市北区細江町気賀

交通：天竜浜名湖鉄道天浜線「気賀」駅 北約 300m

浜名湖の奥、細江町気賀にある細江神社は、全国でも珍しい地震の神様をお祀りする神社として有名です。境内には「地震厄除けの神社 二度の津波を乗り越えた奇跡の御神体が祀られている」との説明書きがあり、地震や津波からの安全祈願のため、全国から数多くの参拝客が訪れます。毎年7月には、災厄を乗り越えたご神体への敬意を込めて、細江神社祇園祭（裏面参照）が開催されます。

細江神社が地震の神様を祀る神社となった経緯は、明応7(1498)年にさかのぼります。当時は浜名湖が海とつながる前で、浜名湖からは西に浜名川が流れ太平洋に注いでおり、この浜名川を旧東海道が渡る浜名橋周辺には橋本宿が栄えていて、浜名湖の湖岸の人々を守護する神様をお祀りした角避比古神社がありました。明応7年8月25日、マグニチュード8を超えると言われる南海トラフの地震である明応地震が発生し、地震による地盤沈下により、浜名湖は今切口が決壊して太平洋とつながりました。この地震で、橋本の角避比古神社も被害を受け、神社の一部とともにご神体が流出しました。

角避比古神社のご神体は、地震により浜名湖に流入した海水により流され、対岸の村櫛を経て浜名湖の奥の伊目に漂着し、当地で祀られることとなりました。しかしながら、明応地震から12年後の永正7(1510)年、再び大地震が発生、浜名湖にまたも海水が押し寄せ、伊目に祀られていたご神体は浜名湖のさらに奥、気賀の赤池に流れ着きました。

2度の地震・津波に遭遇し、浜名湖の入口に近い橋本から浜名湖の奥の気賀まで流されながら失われることなかったご神体は、気賀の人々により尊ばれて仮宮に祀られ、その後、漂着した地から北西に300mほどの場所に新しく建てられた社殿に移され、気賀の総氏神様として祀られました。これが現在の細江神社で、こうした経緯から、以後、地震の神様としてあがめられることとなり、地震厄除けを祈願するため、全国から参拝客が訪れるようになりました。

細江神社にはこの他、境内社として宝永地震の後に気賀の人々を助けた領主・近藤用随を祀った蘭草神社があります。浜名湖に面した水田地帯であった気賀では、宝永地震の津波により潮が入り、稲作ができない土地となりましたが、琉球蘭草なら塩田でも成育する旨を聞いた近藤は、九州豊後国の領主松平公より藩外移出禁止の蘭草の苗を譲り受け、自ら研究し栽培を行い、これを広めました。その後、気賀の人々の努力により蘭草栽培が進められ、遠州表として知られる気賀の豊表は主要な特産物となりこの地域を潤し、昭和20年代頃まで生産が続けられました。



(上) 細江神社
(下) 蘭草神社
写真提供 (2枚共)：
(一社) 中部地域づくり協会



中部災害アーカイブス「地震・大津波の痕跡、教訓から学ぶ」の記事 (http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin_syousai.php?id=25) もぜひ併せてご覧ください。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●^{あんらくじ}安楽寺 (vol.40,2017.8)

所在地：知多郡南知多町日間賀島字里中

交通：師崎港または河和港からフェリー

日間賀島の東に安楽寺というお寺があり、金色に輝く『章魚阿弥陀』と呼ばれるお地藏様が安置されています。たこ阿弥陀様について、地震にまつわる昔話が残されています。

あるときのことです。茂二郎さんという島の漁師が、この大磯のあたりでたこ漁をしておりました。(中略) やがて縄の先についたたこつぼが、青黒い海の底から見えてきました。つぼの口からたこの足がはみ出しています。「これは大きいぞ。」しぶきといっしょに大だこの入ったつぼが、舟の中に飛び込むようにしておさまりますと、茂二郎さんは、つぼの中からたこを引き出しました。

「やや、何だ、これは。」たこがあまりに重いので、はじめは石でもかかえているのかと思いましたが、何だかぴか

ぴか光るものをしっかりとだしているようです。よく見ると、それは、阿弥陀さんではありませんか。びっくりした茂二郎さんは大急ぎで島に帰ってこの阿弥陀さんを安楽寺に届けました。この阿弥陀像は、海に沈んでしまった寺のものだったということです。」

安楽寺に届けられた阿弥陀様は、以来、豊漁と村内安全をお祈りする氏仏様として島の人たちの信仰を集め、正月三日には、年に一度のおまつりが行われるようになりました。おまつりは、丸太と縄で作った御殿に神主と世話役が入り奉納の儀を行ったあと、御殿の中で酒盛りが始まったところで、若者たちが外からゆさぶり、七人衆が驚いてほうほうの態で逃げ出すというもので、日間賀に大地震があったときのことを伝えています。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.40 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★細江神社祇園祭

地震の神様を祭る細江神社では、毎年7月第3土曜日・日曜日に、無形民俗文化財・浜松地域遺産に指定されている細江神社祇園祭が開催されます。(2024年は7月20日(土)、21日(日))

もともとは橋本の角避比古神社のものであったご神体が、神輿船に乗り、飾り屋台を乗せた伴船20数隻とともに奥浜名湖上を回遊する海上渡御が見どころで、かつては祇園祭に合わせてご神体を船で新居まで運んでいま



IN HAMAMATSU.COM HP より

ました。夜になると、賑やかなお囃子とともに、提灯に明かりを灯した出引きが町内を練り歩きます。

細江神社近くの気賀商店街では歩行者天国が開催され、各通りには夕方になると夜店が並び、出引き屋台の引き回しなどのイベントが行われます。

～鉄道で巡る～

天竜浜名湖鉄道天竜浜名湖線(天浜線)は、静岡県掛川市の掛川駅から静岡県湖西市の新所原駅まで、浜名湖の北岸を通る39駅、全長67.7kmの路線です。



養老鉄道株式会社 HP より

1935年開業当時の面影が随所に残るレトロな路線で、沿線には36の国登録有形文化財の建造物・施設があります。ディーゼル車両・ワンマン運転の1両編成が基本で、ほとんどの駅が無人駅です。

●ブレイクタイム●

♪花の奥山高原

花の奥山高原は、^{とんまくやま}富幕山の中腹に広がる観光植物園です。春から初夏にかけて、しだれ梅や花桃、ソメイヨシノなどの花木や、スマレ、雪割草、タンポポなどの野の花の移り変わりが味わえるほか、18ホールのパターゴルフや鯉釣りなども楽しむことができます。5月25日から6月30日までではささゆりとあじさいまつりが開催され、日本原産の「紅」や西洋あじさい「パリ」、真っ白な「アナベル」など、70品種約1万株のあじさいとともに、野生種のささゆりも咲き誇り、初夏の山々を彩ります。



花の奥山公園 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2024年6月)

